

しなかつた時代には天文學も甚だ幼稚なものに過ぎなかつたが、物理學の發達と共に天文學は長足なる進歩をしたと云つてよいであらう。太古時代には天體間の運動は漠然とした神秘的な領域の中に限られて居たのであるが、種々の觀測機械の發明と色々な學者の研究により、恒星の位置運動分布等が精確に判り、星辰界の構造も次第に明瞭の度を増して行つた。而して、ひとり天文學が物理學の恩恵を蒙つたのみならず、物理學も亦天文學によりて良き研究材料を提供され、その發達の上に少からざる便宜を與へられて來たことは云ふ迄もない。古來天文學者と稱せらるゝ人は何れも數學者であり、物理學者であつた。實際、物理學數學を離れての天文學なるものはないである。物理學、數學を考へざる天文學は唯太古時代に於ける人々によつて考へられた神秘のみに屬する天文學である。

今や天體間の運動や法則は殆んど研究せられて、充分明瞭になつて來て居る。然し天文學は非常に範圍が廣く、取扱ふ對象物が廣大なる宇宙であるから、之を完全に窮めることは容易のことではない。宇宙の神秘は人間の偉大なる智力によつて半ば解くことが出來たが、まだ解けないものが多く残つて居る。秘密の奥に更に大なる秘密があつて、果して何時の日にそれが完全に解かれるかと思へば、前途遼遠の感がある。然しながら靈に勇み輝く人間の意志は容易に屈しない。將來の天文學は數學と物理學との密接なる提携によつて、勇敢に未知の世界に侵入し、そこに深い興味を感じ、人生の大使命と信じて、時代と共に進んで行かねばならぬ。そこに學術の微妙なる趣がある。人類の歴史はそれによつて美しく色彩られるのである。(終)

た　　よ　　り

札幌に、明治の始め頃、天文臺(?)のあつた事を知りました。明治大帝の遺跡として今残つてゐます時計臺は、明治十一年に建てられたものですが、その頃は、時計臺の裏の建物で子午線觀測をやつて報時したものださうです。今はその建物はありません。札幌農學校の一、二期卒業の方にお伺ひしたら、或は詳しいことが分るかも知れません。

東京で、ポール氏の講義が初まつたのは明治十二年頃と聞いてますし、天象臺の觀測もその後ではないかと思ひますので、歴史的にも面白い事ではないかと存じます。尙よく調べて見ます。早々

下　保　茂

山　本　先　生　侍　史